

■特集 北九州建築紀行



■門司港地区

関門海峡に面し、明治初期に開港、明治から昭和初期に貿易港として栄えた門司港。しかし、終戦とともに大陸貿易が縮小され石炭の積出も減り、港としては低迷し次第に衰退してゆくこととなります。しかし、行政と民間の協力のもと歴史的建築物を生かした「門司港レトロ」として生まれ変わり今では観光地として、新たな歴史を歩んでいる。若松地区とは対照的に門司地区の建物はキレイに修復され、街全体を一つのレトロな街並みとして再生した。



■ JR門司港駅

明治 24 (1891) 年に九州鉄道の起点駅として開業した門司駅（現門司港駅）の 2 代目の駅舎。木造ながら、外壁をモルタルで石貼り風に仕上げ、銅板葺きのマンサード屋根を乗せることで、ネオルネサンス調の重厚感のある外観デザインになっている。



■ 旧門司三井倶楽部

大正 10 (1921) 年に三井物産株式会社門司支店が、山手の新興住宅地に建設した接客施設。接客用の洋館とサービス設備を備えた和風の附属屋から構成されている。中央の大きなスレート屋根の切妻に小さな窓を設けている。外壁は瓦張りの下地の上に、1 階は人造石洗い出し壁、2 階や出窓部分をハーフティンバーとしてドイツ壁と呼ばれる表面が凸凹のモルタル掃付け壁となっている。



■ 北九州市旧大阪商船

大正 6 (1917) 年に竣工した建物で、角にある八角形の塔が特徴で、当時門司で一番高い建物として地区のランドマークのような存在だった。木造 2 階建（一部煉瓦型枠コンクリート造）で、屋根に設けられた大きなアーチを配した隅角部の窓と、その上部の八角形の塔屋はドイツ・オーストリアで開花したゼツェションの影響を受けたと言われている。



■ 親水広場と旧門司税関

明治 45 (1912) 年に門司税関として建設された。煉瓦造 2 階建。初代は完成してすぐに火災に焼失、現存する建物が 2 代目となる。平成 6 年に修復・復元し、ネオルネサンス調を取り入れた近代建築として甦った。

JR 門司港駅

〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸 1 丁目 5-31
Tel. 093-321-8843

北九州市旧大阪商船

〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町 7-18
Tel. 093-321-4151

旧門司三井倶楽部

〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町 7-1
Tel. 093-321-4151 (レストラン 093-332-1000)

旧門司税関

〒801-0843 福岡県北九州市門司区東港町 1-24
Tel. 093-321-4151